

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年1月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600115
法人名	社会福祉法人桜仁会
事業所名	グループホーム風の詩
所在地	阿久根市赤瀬川276-1 (電話) (0996) 64-6211
自己評価作成日	平成26年12月12日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・風の詩は、海を一望できる高台に立地しています。近隣に特別養護老人ホームや、グループホーム、介護老人保健施設があり、施設開催の行事に参加させていただいたり、防災訓練・緊急時には協力をもらっています。また、近隣のグループホームの運営推進会議へお互いの管理者が行き来しています。地域の行事では、月1回開催される生き生きサロンに参加させていただき、他者としゃべることが好きな方が参加され、お茶を飲んだり、レクリエーションをし、外出の機会を確保しています。他職種との連携では、訪問看護ステーションとの連携をとり、利用者様が健康に過ごせるよう、状態を見ていただいたり、相談し、指示を仰いでいます。月2回は医師の訪問診察があり、状態を見ていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阿久根市郊外の丘の上に立地し、母体法人の特別養護老人ホームとディサービスが隣接している。ホームからの眺望が良く、東シナ海や遠くの山に風車も見えるなど眺めているだけでも癒される景観である。又、自然環境に恵まれ、広い敷地は四季を感じながらの散歩に安全で最適な環境である。法人の施設の敷地内にあるためなかなか地域との交流が難しい点もあるが、毎月公民館で開催されている生き生きサロンに参加するなどして積極的に地域住民との交流の機会を作っている。協力医療機関及び訪問看護事業所との連携が図られ、毎月の往診や看護師による健康管理などが密に行われている。又、本人・家族の思いや希望による看取りにも対応できるように体制を整えている。法人内の異動はあるものの離職がほとんどなく、資格取得にも意欲的でほぼ全員が介護福祉士・ケアマネジャー・准看護師の有資格者で知識と経験が豊富な職員が確保されている。職員間のコミュニケーションが図られてホーム内が明るく、利用者が安心して安全に生活できる家庭的なグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に職員全員で理念を復唱し、常に頭の中に入れ意識している。	理念は地域密着型サービスの意義と認知症を理解した内容のものとなっている。職員は毎朝朝礼時に理念を復唱して共有と実践に繋げている。又、事業所会議等で振り返る機会も設けている。理念は玄関・事務室・ホールに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域への行事に月一回参加し交流を行っている。民生員の方に運営推進会議に出席して頂いている。	地域との交流が難しい立地環境にあるが、毎月公民館で開催している生き生きサロンに参加するなどして積極的に交流の機会を作っている。看護学校生の実習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	これから資格をとっていこうとされている高校生や看護学生の実習を積極的に受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、行政や家族の代表者の意見、情報を得ている。それらを元にどうやってグループホームをアピールしていったらよいかを話し合っている。	民生委員・家族代表・近隣のグループホーム管理者・行政等の参加で2ヶ月に1回開催している。事業所の運営状況や行事・活動内容の報告を行い、困難事例等話し合っって参加者からの助言をもらうなどサービス向上に活かしている。参加していない家族には家族会時に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度利用者状況をFAX、直接市役所へ提出している。また、2ヶ月に1回開催している運営推進会議での状況の報告を行っている。	運営推進会議に出席してもらってホームの実情や取り組みを積極的に伝えている。また、日頃より連携を図り、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所会議の中で、帰りたい気持ちの強い方への対応について話し合っている。散歩や談話などで気持ちが落ち着くように配慮している。	マニュアルを作成して年1回研修を行い、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるように取り組んでいる。重要事項説明書にも方針が明記されており家族にも説明して理解をもらっている。外出傾向のある利用者に対しては職員間で連携を図りさりげなく着いて行き見守るなど安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対しての勉強会を実施し資料をいつでも見られるよう、常に再確認できる環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護について研修会に参加し、理解できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は表を用いて利用料金の説明をしている。また、生活していく上でのご家族の希望があれば伺いかなえられるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や来居時に意見や要望がないか常にかがうようにしている。出された要望についてスタッフ・事務長と話し反映させている。	来訪時、電話連絡時、年2回の家族会時等に家族の意見や要望を聞き出すように努めている。また、毎月家族に郵送している「月間報告書」にてホームの状況を報告している。出された意見要望については職員間で話し合っ運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	園長は体調の良い時に風の詩に来てお茶を飲みながら、職員の話を聞いてくださる。	毎朝夕の申し送り時や毎月行われている全員参加の事業所会議で職員の意見提案を話し合っている。事業所会議は個々に発言の機会を設けるなど職員主体の会議となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休が取れるよう配慮し、育児休暇後の職場復帰にも本人の希望を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の研修や桜ヶ丘荘の研修、外部研修等に参加し、ケアの向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に入会しており、阿久根市内のグループホームの管理者などと話す機会を持っている。近くのグループホームの運営推進会議に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用前に面談を行い、ご本人の希望を聞きだせるようにしている。利用初期は時間をかけて、本人様の話を聞き、落ち着いた生活が出来るよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族との話し合いの中で何に困っているかを聞き、事業所内での対応を説明し、信頼関係が築けるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の思いを受け入れ、職員全員で話し合い、状況にあったサービスにつなげられるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を敬い出来ることを引き出し、お互い感謝の心を持って、穏やかな生活が出来るよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が快適に日常生活が送れるように努めている。ご家族と連絡を取り、共に解決できるようにしている。また、月間報告書を活用し、ご家族に日々の生活を把握していただけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで生活されていた場所へ案内していただくなどして、住み慣れた地域を意識していただくように努めている。	利用者個々の希望や思いに沿って墓参りや自宅訪問、敬老行事で以前住んでいた地域へのドライブなど実施して馴染みの場との関係継続の支援に努めている。また、友人知人の来訪もあり、訪ねやすい雰囲気作りに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通して馴染みの関係を深めていくよう努めている。また、事業所会議や朝礼時にスタッフ間で情報共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所された後も面会に行き状態を把握し、交流の継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝の挨拶時や日々の関わりの中でご本人に希望や要望を聞き、事業所会議やミーティングで情報交換を行い、検討している。	日頃より利用者に寄り添い接することで会話や表情・言動などから思いや希望を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人に生活暦や暮らしについて情報収集し、ご本人の理解を深めることに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握する為にスタッフ間で情報共有し、状態の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に生活について要望を聞き、分かりにくい場合はご家族とスタッフで話し合い要望に添えるよう計画の作成をしている。	本人・家族の生活に対する意向や希望を聞いて個々に応じた介護計画を作成している。変化がなくても3ヶ月ごとにモニタリングを行い、現状に即した介護計画となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録、排泄、食事チェック表などを活用し、日々の様子を記録している。記録を元に事業所会議でご本人に合ったケアを話し合い、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に応じて通院・外泊等の要望があったときにはスタッフの勤務を変えたり対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている生き生きサロンへの参加、法人内の行事に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力病院の医師の往診がある。入所前のかかりつけ医とご家族で相談していただき、ご家族の希望を尊重しながら協力病院での往診対応を行っている。	本人・家族の同意の下で協力医療機関による往診が行われている。家族が連れて行く他科受診についてはホームより「処方依頼書」を作成してかかりつけ医と直接関係を築いている。緊急時の搬送先についても入居時に確認して家族の同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションの看護師が訪問看護として週1回来られ、バイタル測定を行っていただき、日々の健康管理について相談し助言して頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に医療機関の地域連携室と連絡を取り合い、情報交換を行っている。職員が見舞いに行き、退院についてご家族と話し合っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重症化した場合の事業所の対応について、ご家族に説明している。本人の気持ちを大切にしながら家族と医療機関と連携をとりスタッフ全員で支援できるようにしている。</p>	<p>重度化や看取りに関する指針を作成して入居時にホームの方針を説明し同意を得ている。入居後は医師の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。利用者の高齢化が進み、本人・家族の希望に沿って医療機関と連携を図り、ホームでも看取りに対応できるように体制を整えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>訪問看護ステーションの看護師と消防署の救命士に助言をもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の立会いで避難訓練を行い、特老や近隣施設の職員にも協力を得ている。</p>	<p>昼夜間想定で年2回避難訓練を実施している。また隣接の施設とは協力関係が築かれている。スプリンクラーは設置済みで備蓄も隣接の母体法人で確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ここの性格に合わせ尚且つなじみのある方言の中にも尊敬の念のある言葉かけを行っている。	理念に「人格の尊重」を掲げ毎朝唱和するなどして常に意識して利用者に向き合っている。また、年1回はプライバシー研修が行われており、日頃より声かけや接し方など職員間で話し合っている。便り等への写真掲載については入居時に説明して同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を自由に気兼ねなく表出できるような雰囲気作りに努め、出来る限り希望を聞き入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、その人の意思を尊重しその人のペースでその人らしく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2ヶ月に1回散髪している。起床時にはくしを通し、入浴後には椿油や化粧水を利用している。つめきりや耳掃除も行っている。トイレの後には衣服を整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を利用し、普通食・刻み食・アレルギー対応食等工夫している。また食欲を刺激するような彩にも気を配っている。おしぼり巻き・お膳拭きのお手伝いをして頂いている。	法人の管理栄養士のアドバイスを基に栄養バランスのいい家庭的な食事を提供している。餅つきや切干大根、つわの下ごしらえ、誕生日の手作りケーキなど職員とともに、気候のいい時期にはベランダでのお茶や食事、弁当持参の遠足にも出かけて「食」が楽しめるように趣向を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量状況を記録し、毎月の体重測定をもとに個人の状態に応じて小分けしたり、食べやすい状態での提供を行い、1日の摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人の状態に合わせて口腔ケアの手伝いをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を元にパターンを把握し、声かけ・誘導している。	排泄チェック表を活用して排泄パターンの把握に努め、日中は身体状況に問題がない限り全員トイレ誘導を行い、自立している利用者には職員のさりげない声かけ誘導で維持できるように支援している。また、日中リハビリパンツから下着に替えるなど個々の状況に応じて改善できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然なリズムでの排便が出来るよう食事の内容や水分に気をつけている。運動にも取り組み、やむをえない場合には訪問看護ステーションの看護師に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本午前中と決めているが、体調不良や希望によっては入浴や変更できるようにしている。	基本は午前中であるが、個々の身体状況や希望により柔軟に対応している。入浴をためらいがちな利用者にはタイミングや声かけの工夫で無理なく入浴してもらえるように支援している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日のリズムを整えられるよう日光浴を行ったり、安心して眠りにつけるよう声かけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所会議で薬の内容の確認をし、効能書をいつでも確認できるところに置き、必要に応じて確認・薬の正しい服用に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個性を生かせるようゲームや掃除等一緒に楽しめるよう支援している。食事の後片付けや洗濯物たたみなどをして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き、その方によっては買い物やドライブ・また、家族の方と外出されたり、季節の行事を計画し、花見や月見等を行っている。	日常的にはホーム周辺の散歩や買い物に出かけ、気候のいい時期にはウッドデッキでお茶や食事をして日光浴や外気浴を行っている。また、初詣、弁当持参の遠足、敬老行事の馴染みの場所へのドライブ、毎月の生き生きサロンなど可能な限り外出の機会を作って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小額の小銭を所持している方もおられ、管理して頂いている。預かり金はスタッフが管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎをしたり、年賀状をお渡ししている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自室やトイレ等が分かりやすいように張り紙を使用している。ロビーは夕方西日が入ってくるので、利用者様が不快にならないよう障子・夏場にはよしずも使い、日光を調節している。気候がよければ、ベランダでの昼食を行い、季節を感じていただけるようにしている。</p>	<p>共用空間は広く明るく、遠くに東シナ海を望むことができ眺望も良い。リビングから直接ウッドデッキに入ることができるため開放的で空調や換気が行き届き居心地よく過ごせる空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ロビーに5個のソファを使用している。それぞれお好きなどころに座れるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビや位牌などご本人が自宅にあったものをご家族の協力で持ってきていただいたり、家族写真を飾ってご本人が気持ちよく過ごせるよう配慮している。</p>	<p>ベッド・寝具・タンスが備え付けとなっており、家具等の持ち込みは少ないが、飾り物や家族の写真などで居心地よく過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーとなっており、張り紙を活用し自室やトイレが分かりやすく行きやすいよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない